

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172900672		
法人名	有限会社みのり		
事業所名	グループホームみのり ユニット1		
所在地	旭川市永山2条17丁目1番11号		
自己評価作成日	令和2年10月6日	評価結果市町村受理日	令和3年1月7日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172900672-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=0172900672-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和2年10月23日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

平屋建てで外出が楽にでき、敷地が広く天気の良い日はテントやベンチを設置してあるのでゆっくり過ごす事が出来る。今年度はコロナウイルスの感染防止の為なかなか外出が出来ないが敷地内での日向ぼっこ・散歩等機会を増やし対応している。  
ご家族の面会等も制限をしているが、感染対策をして天気のいい日に外で一緒に過ごして頂いたり対応している。  
朝・夕必ず足浴を行っており、スキんシップの効果や1対1での関りやコミュニケーションを図り、不安な事など話をしたり、安眠効果や体調の変化等も把握できる良い機会になっている。  
担当医や訪問看護師と連携し、ターミナルケアまで個々の要望に応じている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所はJR永山駅に近い大型商業施設が立ち並ぶ大雪国道(R39)沿いにある木造平屋建て2ユニット(定員:18名)の認知症対応型共同生活介護事業所(グループホーム)で、ヘルパーステーション、訪問看護ステーション、児童デイサービス、生活介護事務所を併設している。地域住民向けの認知症サポーター養成講座を開催したり、地元大学の看護学科の生徒の受け入れや小学校の職場見学など、地元住民との交流や協力連携に取り組んでいる。利用者の希望に沿って、花見や冬まつり、サンタプレゼントパーク展望台、動物園、神社祭などへの普段は行けない場所でも本人の希望を把握し、戸外に出かけられるように支援している。但し、今年度はコロナ禍により外出支援は自粛している。利用者のフラストレーションを解消する上で、レクリエーションの充実など、経験年数の長い職員のアイデアを屈しながら支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55まで日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員が名札の裏に「利用者様の想いを中心に共に生活を築いていく。」を理念と記したものを常に持ち歩きいつでも意識できるようになっている。	地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、職員の名札の裏に記し、常に意識を持ち、職員で共有し日々実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している	年に1回、ホーム主催のみのり祭りで、地域の住民やご家族の方と交流の機会をもっている。今年度はコロナウイルスの感染拡大防止の為、やむを得ず中止とさせていただきます。	例年は事業所主催の「みのり祭り」を行い、地域の人や家族の参加を通じて交流を行っていたが、本年はコロナ禍により中止をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入所者の介護度や認知状態・グループホームでの取り組み等を運営推進会議にて随時お伝えし、地域の人々からの協力を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を行っており、ホームの入居者さんの状況や行事予定を報告し、意見を頂いた事は今後に生かすようにしている。避難訓練等も参加して下さり意見を頂いている。(今年度は残念ながら開催がほとんど出来ていない状態)	2か月に1度、地域包括支援センター職員等が参加して運営推進会議を開催し、事業所の取り組みや内容を報告し、そこで出された意見を今後のサービスに活かしている。今年度はコロナ禍により開催していない。その代わりに事業所の状況等を書面で報告している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点や相談等、市の関係機関や地域包括支援センターに問い合わせ、必要に応じてながら利用し対応している。	市の担当者及び地域包括支援センターとは電話や訪問(コロナ禍で自粛)しながら、事業所のサービスや取り組み等を伝えたり、感染症予防対策の指導を受けるなど、日頃から協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施設を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、定期的に全体会議の時に事例をあげ研修を行い、話し合い検討している。玄関の施設を含めて身体拘束のないケアの実践に取り組んでいる。3ヶ月に1度管理者会議にて身体拘束など適正化対策委員会を開いている。	3ヶ月に1度管理者会議にて身体拘束など適正化対策委員会を開催し、身体拘束をしないケアの実践等の研修を行い職員全員が理解しながら日々のケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修に参加し、全体会議の時に発表・勉強会を行っている。日常の中でも疑問に思うことは話し合い、家族にも意見を頂き防止に努めている。		

グループホームみのり ユニット1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修等に参加し知識を深め、いつでも対応できるよう努めている。現在成年後見人が付いている利用者1名。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	施設入所にあたり、入居前の見学・面識を重ね確認事項など説明を行ったうえで、不明な事がないかをお聞きし、十分に理解・納得されたうえで契約を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先に苦情相談窓口の連絡先を掲示している。家族や利用者が意見や要望を言いやすい関係・環境作りを努め、ご家族の面会時にたくさんお話して、ご意見をいただけるよう努力している。	玄関先に苦情相談窓口の連絡先を掲示し、意見がある場合の意見箱も設置している。家族の来訪時に家族からの要望や意見等小さなことも聞くように努めていたが、現在コロナ禍により来訪を自粛してもらっているが、電話等で要望や意見を確認している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	意見を言いやすい環境作りを努めている。職員からの思いや意見は、その都度管理者へ伝えている。全体会議の時に話し合いの場を設けたり朝礼や終礼時に意見交換等行っている。	管理者は日常業務や会議等で職員の意見や提案を汲みあげるよう努め、出された要望等は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	正社員への登用や資格取得時には勤務を融通するなど職場環境を整えるよう努力している。休み希望をシフト表に反映することにより、公私ともに充実できるよう努め、勤務も時間内で就業できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部・外部研修に積極的に参加するよう促しケアの向上に努めている。(今年度は自粛中)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	研修や活動に参加し交流を持てるよう取り組んでいる。(今年度は自粛中)		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の希望や困っている事、不安に思っている事、どんな生活を送りたいか確認し信頼関係作りに努めている。出来る限り担当の職員が関わるようにし、不安感を軽減できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に面談し、ご家族の困っている事や希望・要望どんな生活を送ってほしいか等の希望を確認している。入所後も更なる信頼関係を築いていけるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所を希望され相談を受けた段階で早急か否かを見極め判断している。家族や、居宅事業所等からも情報を得て、必要な支援が出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で出来る事を促し行って頂き、コミュニケーションを図りながら共に支えあって生活している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族来訪時、最近の様子等をお伝えしている。家族にはこまめに相談し、アドバイスを頂いたり一緒に考え支えている。定期的に便りを発行し、近況を報告している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人の来訪はいつでも対応できる状態になっている。入居者が行きたい等希望があれば出来る範囲で支援している。(今年度は自粛中)	本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や、場所との関係が途切れないように努めており、入居者の希望に沿った支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	行事等日々の生活の中で交流を持ったり、一人一人が関わりを持ったりできるように支援している。利用者同士の関係性に配慮し座る位置等も工夫している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、縁を大切にしながらもつながりを持って連絡をとり協力をお願いしたりできる関係作りや必要に応じて相談や支援を行っている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	お話しするのは勿論ですが、毎日の関わりの中のちょっとした仕草や表情、声なき声を汲み取れるよう努めている。介護計画書に反映できるように本人の思いに耳を傾けるようにしている。	日々の関わりの中から、利用者一人ひとりの思いや意向を把握するよう努めており、把握したことについては職員全体に周知しながら情報を共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居者からの日常的に昔話を聞いたり、家族に伺ったりして、生活歴や馴染みの暮らし方、習慣を把握している。また契約時に生活歴を記入して頂く用紙も用意している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個別に介護記録を毎日記入し、日常の様子、心身の状態等・個々の生活リズムを把握しその方にあった過ごし方を支援できるよう心掛けている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にモニタリングを行い、また会議の時に職員間で検討を行い、それぞれの意見や本人や家族の要望等も伺って、介護計画に反映するようにしている。	利用者や家族の希望を聴き、定期的にモニタリングを行いながら職員の気づき等も参考にして利用者の暮らしに反映できる介護計画が計画作成担当者により作成されている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護記録に日常の様子・心身の様子、ケアの実践について記録している。今後、ケアプランと記録の関連を充実させていきたい。また、申し送りノートも活用するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	可能な限り、対応できるように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の方々や運営推進会議棟で入居者様の生活を知っていただき、地域でボランティア活動をされている方に行事の時に来て頂いたり安全で豊かな生活を送って頂けるように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人やご家族が希望する病院を必要に応じて、職員付き添いにて受診している。かかりつけ医と連携し、必要時電話にて相談している。定期的に内科・歯科の往診医の診察がある。	利用者や家族の希望するかかりつけ医に継続して受診できるように支援している。職員が同行し、結果を家族に報告している。内科や歯科の協力医による定期的な往診がある。	

グループホームみのり ユニット1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師の訪問時に介護職員は気付いた事や情報等を伝え、訪問看護師からは医学的なアドバイスを受けたり相談できるようになっている。いつでも対応できるように連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院中は、面会や病院職員を通じて状態の把握に努めている。早期退院に向けて病院やご家族と連絡を取り合い情報交換や相談をしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご本人・ご家族が希望される場合はターミナルケアを行っている。訪問看護利用したり、職員全員がご家族の意向等、情報を共有し現状を理解することによりチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族と話し合い、事業所ができることを十分に説明しながら指針を職員間で共有し、ターミナルケアを実践している。かかりつけ医と訪問看護ステーションと連携協力し、利用者と家族が安心できるよう終末医療を支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応マニュアルに沿って対応の確認をしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練や通報訓練は昼夜を想定して、全員参加で定期的に行っている。水害時の避難場所の把握にも努めている。地域の方に協力して頂けるよう地域行事への参加等心掛けている。	年2回、昼・夜を想定した避難訓練を実施している。複合災害時の避難場所の把握や避難経路、役割分担や連絡体制等、災害対策を整えている。	町内会、消防署、お寺、地域の団地等、地域全体で複合災害等の訓練の参加実施を行っていく必要性があるが、現在のコロナ禍のような想定外の状況があるような場合に、どのように対応していくかを電話や文章等で、連携できる対応策を纏めていく事を期待する。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格の尊重とプライバシー保護を考え言葉遣い等気を付け、時々馴れ合いの言葉で話をしてしまうこともあるのでその都度、スタッフ間でも注意しあえるよう努めている。	誇りやプライバシーに配慮した言葉掛けに注意を払い、一人一人の人格を尊重し、なれなれしくならない様に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々のコミュニケーションの中で利用者が職員に対して遠慮なく話せる関係作りに努めている。自己決定が難しそうな場合は、選択できるような声掛けも心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな一日の流れは決まっているが、それに囚われすぎないように柔軟な対応を心掛けている。個別に散歩や買い物・外食に出かける事もある。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に訪問美容師に来てもらっており、本人の好みに合わせてカットしてもらっている。		

グループホームみのり ユニット1

自己評価	外部評価	項目	外部評価		
			自己評価	実施状況	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人一人の食事の好き嫌いを把握し、嫌いなものがある時は別の物を提供している。食事形態も考慮している。月に一度行事の時はチラシ寿司やお刺身等提供しておりとても喜んで下さっている。	職員は日頃の食事摂取の様子から好き嫌いの傾向を把握している。入居者の希望に応じて、食事の準備から片付けまで協働で行っている。ひな祭りなどの行事にはちらし寿司やお刺身などを準備したりして季節に合わせた楽しみを取り入れている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量は毎日チェックし、記録している。一人一人の状態を把握し、食事形態を変えたり、水分に関してもトロミを使用したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアの支援を行っている。その方の能力に応じて、出来る部分は行ってもらい出来ない部分を支援している。必要時、歯科往診医に診察して頂きアドバイス等いただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄担当の職員が中心となりオムツの使用方法を随時検討し対応している。排泄パターンを把握しパットに頼りすぎないよう可能な限りトイレ誘導を行っている。	利用者の排泄状況を把握しながら、時間間隔や様子観察などそれぞれのタイミングに合わせて声かけ誘導を行い、トイレでの自立排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員全員が、便秘の悪影響を理解しており、運動や食事・水分・毎日ヨーグルトの提供などの援助を行い便秘予防に努めている。排便がない時は下剤調整等対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日は基本的には決まっていますが、個々の状態や体調に合わせて本人の希望等を優先している。拒否等見られるときは時間をずらしたり、曜日をずらしたりと本人のタイミングに合わせている。	入浴は基本的に月・木曜日に決めているが、希望やタイミング、生活習慣に応じながら時間や曜日をずらす等、本人のタイミングに合わせてながら入浴支援を行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	全室個室になっている為、自由な時間に休んでも頂いたり利用者の体の状態に合わせて日中に休息する時間を作り休んでも頂いている。朝・夕と足浴を行い1対1でのコミュニケーションを図り血行をよくし安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	1人1人薬カレンダーを用意しており、薬変更時は申し送りや朝礼や終礼時にも確認し、周知徹底できるようにしている。職員誰もが確認できるような薬の内容等、ファイリングし共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	施設内では職員と洗濯物たたみや出来る事を行って頂いている。個々に嗜好品を購入し、食への楽しみが持てるよう配慮している。花見や雪まつり見学等季節の行事を楽しんで頂けるよう支援している。		

グループホームみのり ユニット1

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	自由に家族の面会が出来、一緒に外出・外食等も出来る。希望し、外食したり随時買い物へも出かけたりしている。(今年度は自粛中)	例年は利用者の希望に沿って散歩や買い物、外食等の外出支援と行っていたが、現在はコロナ禍によって自粛中である。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	事務所でお預かりしている利用者がほとんどですが、ご本人・ご家族の了承のもとで支援している。希望時はいつでもおこずかい帳を見る事が可能である。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時、ご家族に電話を掛けたりまた施設に利用者宛に電話がきた際はご本人にも取り次いでいる。年賀状や手紙の代筆も希望があれば行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節に応じて、鏡餅・ひな人形・五月人形・クリスマスツリー・花等を飾り、掲示物も季節感を大切にしている。共有スペースで居心地よく過ごして頂けるように使いやすい配置等心掛けている。	共用空間は、温度や湿度に配慮しながら定期的な換気や床やテーブルなどの消毒等感染症予防を行いながら、利用者が過ごしやすい環境づくりに努めている。季節毎の飾り付けや行事参加の写真の掲示などしながら、利用者の生活で飽きさせない環境づくりに努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファをおいてゆったりと過ごせるような空間になっている。食卓からもテレビを見る事が出来、ホールが広くスペースがある為ベランダの前で外を眺めたりと思い思いに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	全室個室になっている為、仏壇や使い慣れた家具・写真等、馴染みの物に囲まれて生活出来ている。温度調整や換気にも気をつけている。	利用者と家族で相談しながら使い慣れた家具や寝具、家族の写真など持ち込み、その人らしく居心地良く過ごせるよう配慮され生活感がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室内は、その人の状態や体調に合わせて、都度環境整備やベットやダンス等の配置換えを行っており、ご本人が使いやすく生活しやすい環境作りに努めている。		